

新庄徳洲会病院における 警察依頼 A i - CT 実施状況 報告

2026年 1月

医療法人徳洲会 新庄徳洲会病院
診療放射線科

【 期 間 】

- 2025年 1月1日～12月31日

上記の1年間で、警察依頼Ai-CT実施状況を以下の通り取りまとめたので報告いたします。

① 警察依頼Ai-CT 実施件数

（年間実施件数：過去分含む）

② 警察依頼Ai-CT 実施内訳

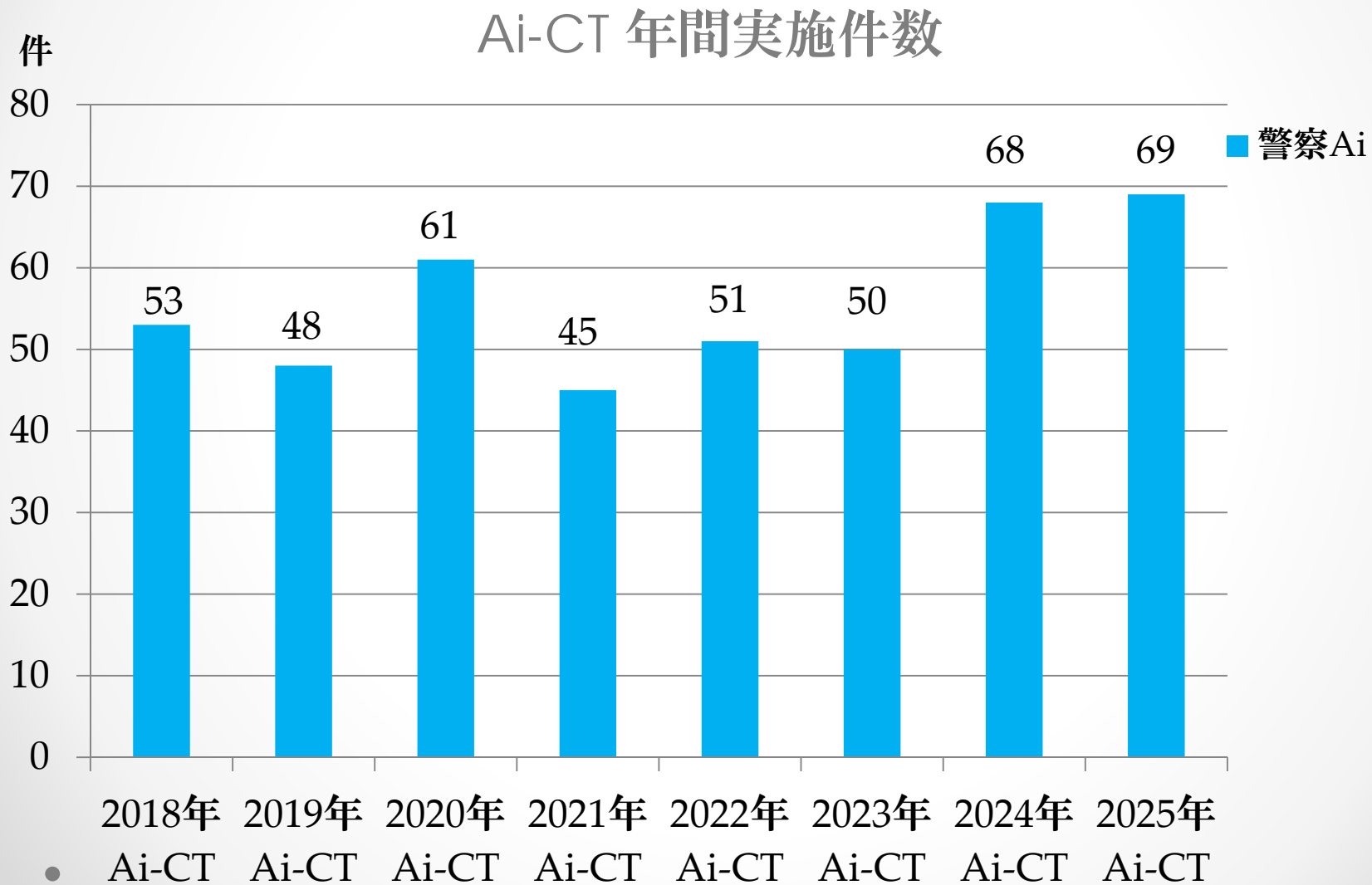
（月別件数・ご遺体の年齢別人数 / 男女別人数・警察署の依頼元別件数）

③ 警察依頼Ai-CT 実施後、医師の読影による死因判明について

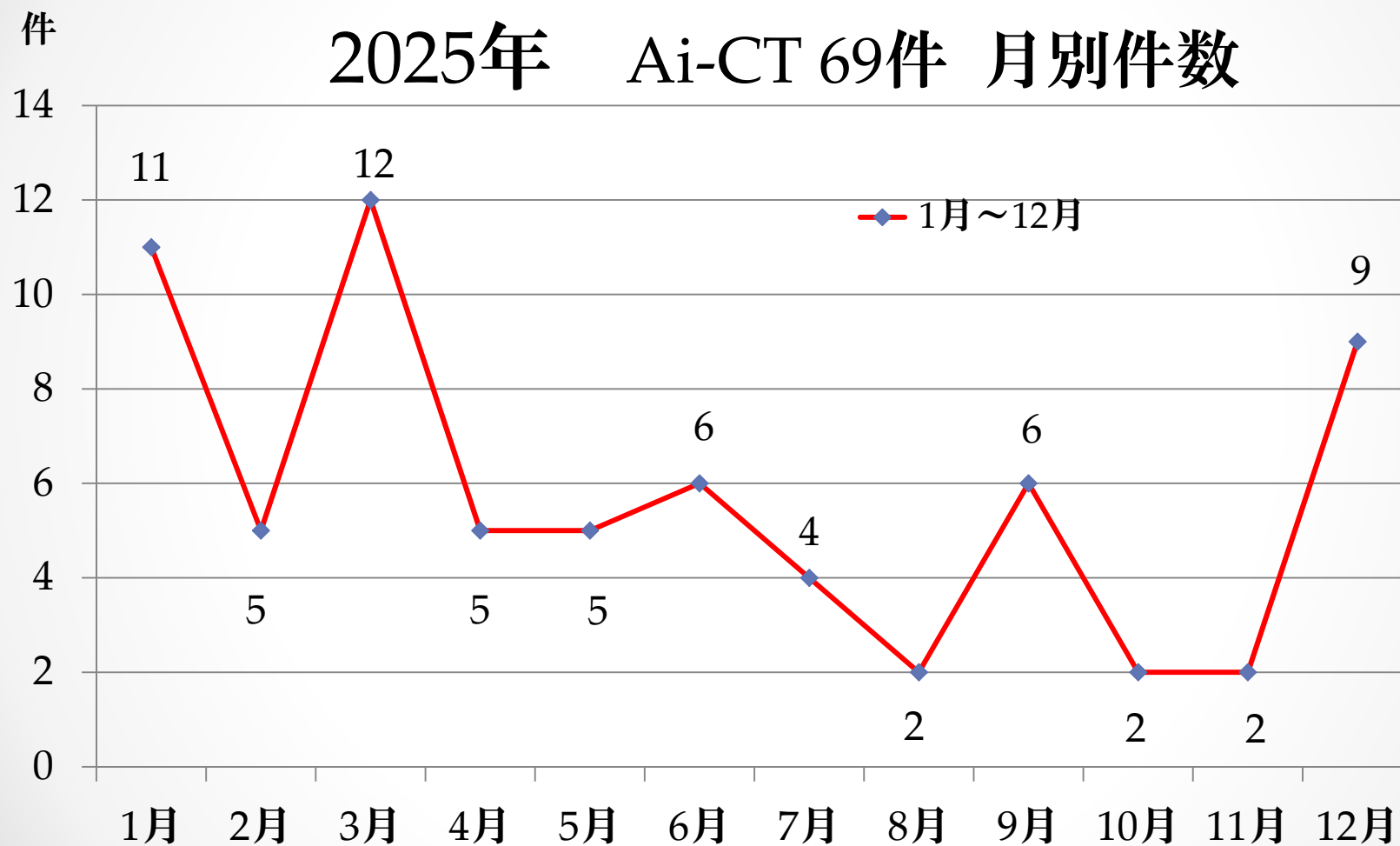
（死因判明率・死因判明の内訳）

【 結 果 】

① 警察依頼Ai-CT 実施件数

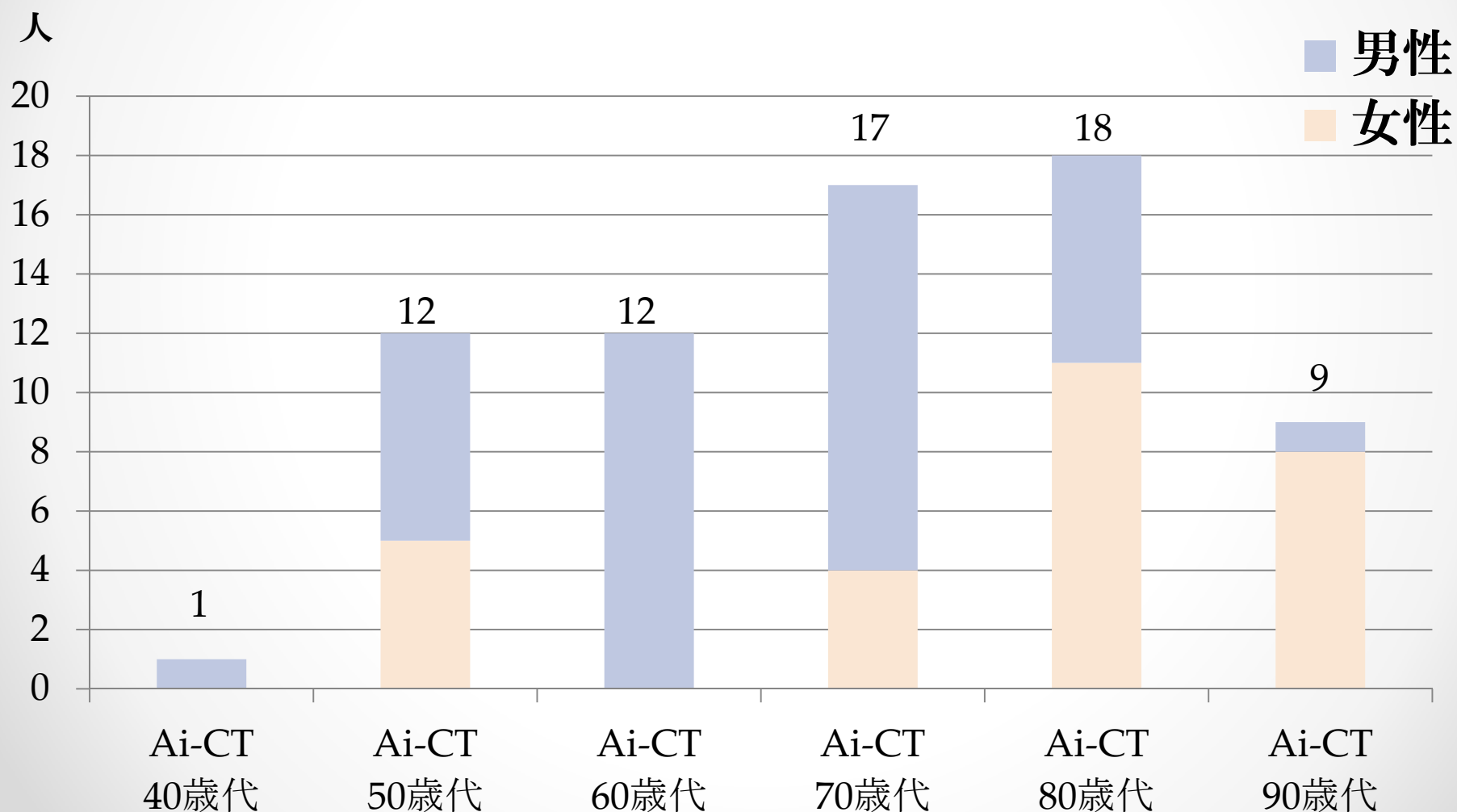


② 警察依頼Ai-CT 実施内訳



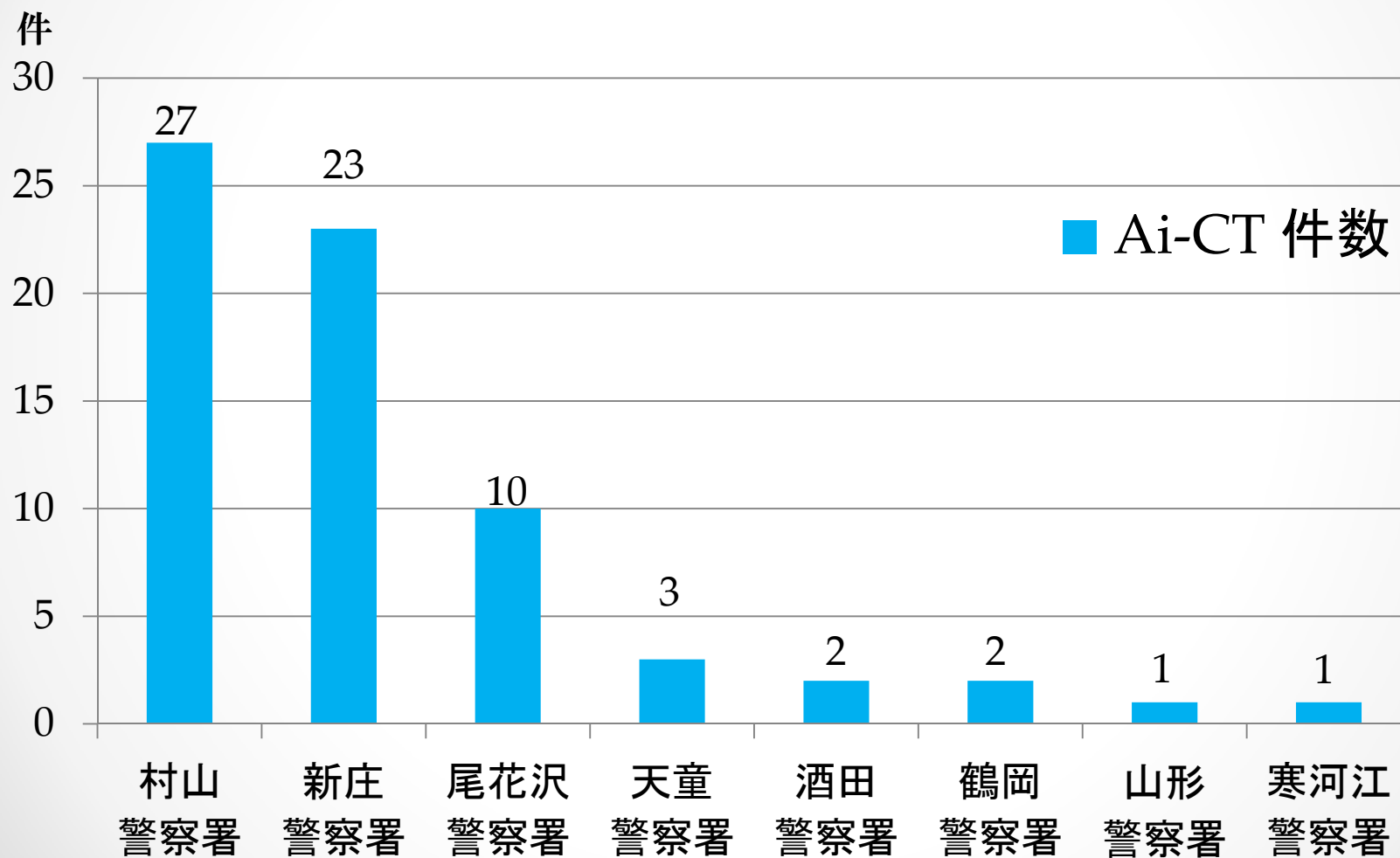
② 警察依頼Ai-CT 実施内訳

Ai-CT 69件 ご遺体の年齢別人数 / 男女別人数



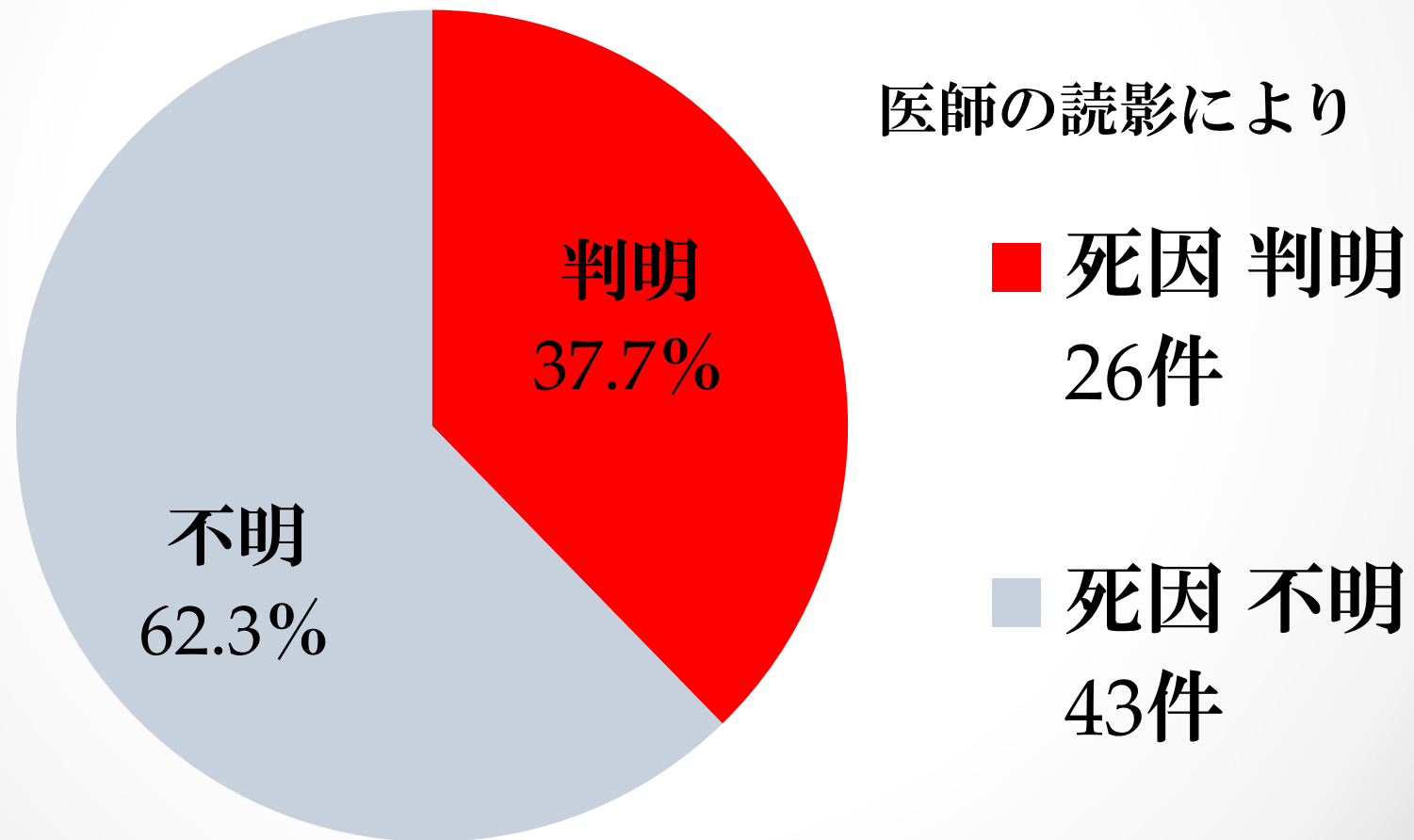
② 警察依頼Ai-CT 実施内訳

Ai-CT 69件 警察署の依頼元別件数



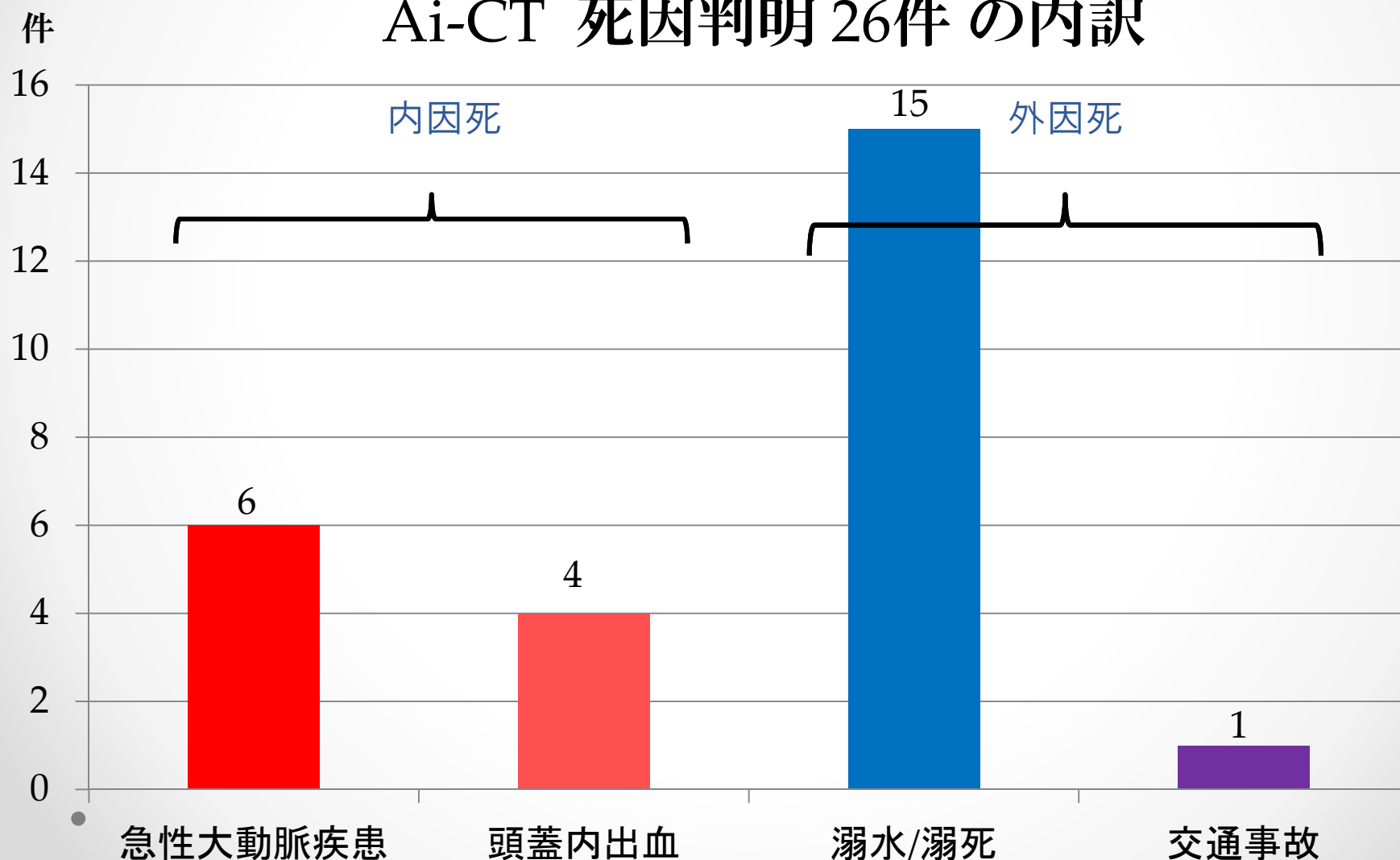
③ 警察依頼Ai-CT 実施後、医師の読影
による死因判明について

Ai-CT 69件 の死因判明率



③ 警察依頼Ai-CT 実施後、医師の読影による死因判明について

Ai-CT 死因判明 26件の内訳



【 結 果 】

- 当院は、2025年(1月～12月) 1年間で死因究明を目的に警察署からの依頼で Ai-CT検査を 69件 実施いたしました。
- 警察依頼Ai-CTは、1月、 3月、 12月の順で冬期間の依頼が多くあった。
- 警察依頼Ai-CTを行った、ご遺体69人の年齢は、40歳代から 90歳代までの各年齢層でした。また、ご遺体 69人の内、男性が 41人、女性が 28人でした。
- 小児のAi-CT検査依頼はありませんでした。

- 警察署の依頼元は、村山警察署依頼が 27 件で全体の 39.1%、新庄警察署依頼が 23 件で全体の 33.3%、尾花沢警察署依頼が 10 件で全体の 14.5%、天童警察署依頼が 3 件で全体の 4.3%、酒田警察署依頼が 2 件で全体の 2.9%、鶴岡警察署依頼が 2 件で全体の 2.9%、山形警察署依頼、寒河江警察署依頼がそれぞれ 1 件あり実施いたしました。
- 2025 年 1 年間で警察依頼 Ai-CT 実施後、放射線科専門医師の読影による死因判明率は、69 件中 26 件の判明で 37.7% でした。
- 死因判明の内訳は、内因死である急性大動脈疾患が 6 件、頭蓋内出血が 4 件、外因死である溺水/溺死が 15 件、交通事故が 1 件でした。(急性大動脈疾患の内訳は、大動脈解離が 3 件、大動脈瘤破裂が 2 件、心嚢血腫が 1 件でした。)

- 外因子である、溺水/溺死による死亡例が15件と一番多かった。状況を見ると家庭における浴槽内で顔(鼻口)を完全に水没させ意識のない状態で発見されたが、かなりの時間が経過しており、救急隊到着時には死亡が認められたため病院へは不搬送になった事例でした。
- 溺水/溺死によるご遺体 15名の年齢層は、69歳以上の高齢者でした。
- 男女別では、男性が5人、女性が10人でした。

【 まとめ 】

- Ai-CTの死因判明率は、一般的に約30%程度とされていますが、当院は2025年1年間を対象とした警察署依頼のAi-CTにおける死因判明率は、37.7%でした。明らかに事件性が疑われる事例は、ありませんでした。死亡原因のうち、家庭における浴槽内での溺水事故による死亡例が多く、高齢者や単身世帯が増加していることが一因と考えられます。高齢者で、溺水のリスクのある人、特に冬季期間の入浴には注意が必要です。
- 今後も警察署依頼のAi-CTに対して、今まで通り柔軟に対応して行きたいと考えています。
- Ai-CTは亡くなられた方にとって人生最後の検査であり、我々も通常通り真摯な態度で検査を行います。これからもAi-CTは死因究明の重要な手法として期待されると考えています。

【 最後に 】

「 入浴中の死亡事故について 」

- 入浴中の溺死の多くは、浴槽内での意識の消失により、溺水を吸引し窒息死すると考えられています。これまで浴室での溺死は、寒暖差による「**ヒートショック**」が原因と言われてきましたが、実態調査では「**熱中症**」が多いことが示されています。
- 肩や首まで熱いお湯につかる全身浴では、体を冷やす放熱ができなくなり、体温調節ができなくなって**体温が上昇し続けて**しまいます。
- お湯に長い時間つかり続けて**意識が低下**した結果、浴槽内で**脱力**して顔が湯につかっていたり、顔面がつからなくても浴槽から出られなくなることでさらに体温が上昇し、それ自体で死因になる場合もあると報告されています。また、お湯が熱いほど体温は早く上昇することが報告されています。

「 浴槽内死亡事故の予防対策 」

- ひとり暮らしの高齢者で、溺水のリスクのある人の、特に冬季期間の入浴には注意が必要です。
- 高血圧や動脈硬化のある人の入浴には注意を促す。食事後やアルコール飲食直後、睡眠導入剤等の薬物服用直後の入浴は避ける。
- 家全体、特に入浴前には、脱衣所を温める。
- 入浴中の熱中症を予防するには、**体温が 38℃を超えない**ことが重要です。
- 「熱め、長めの入浴」を減らし、お湯の温度は「**41℃以下、つかる時間は10分まで**」の入浴が大切です。
- 同居家族が居る場合は、入浴時の見守りをし、こまめに声がけをする。
- ひとりでも浴槽内での死亡事故が減ることを願います。•